

令和6年度 学校評価実施報告書

幼稚園名（みつば幼稚園）

教育目標

夢中になって遊び
心豊かにたくましく
生きる力の基礎を培う

年度末の最終評価

自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し 今年度は特に『レジリエンス』の育ちに注目して、保育の振り返りを進めてきた。その中で、子ども自らもつ『主体性』や『意欲』の大きさを感じることができた。教師自らがこれらの子どもたちのもつ『ちから』を大切にし、その育ちをサポートするという立場に立つことで、一人一人の子どもたちの『自分の思いを表そうとする力』『困難なことにも挑戦し、やり遂げる力』『友達とひびきあう力』が育ってきている。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 様々な行事や、日々の保育を参観したり、共に参加したりする中で、一人一人の子どもたちの主体性や多様性を認める保育を展開していることが感じられる。また「地域の中で育つ」ことの大切さが保護者の中にも浸透してきているので、みつばの森としても、子どもたちや保護者の実態に即した支援を積極的に進めて行きたい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	10月29日	学校運営協議会
最終評価	3月13日	学校運営協議会

（1）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組

- ・本年度は『ありのままに』『つながって』『ひびきあう』をキーワードに『レジリエンス』の育ちに着目して保育の充実をめざす。
特に『からだ』『アート』『しぜん』の活動の中での育ちに焦点をあてる。
- ・週案や指導案作成時、担任だけでなく他の教職員の意見も取り入れることで、より『その時』にふさわしい活動ができるようにする。
- ・保育の中での、子どもの育ちや環境や援助の工夫をエピソードで表す。

（取組結果を検証する）各種指標

- 週末のミニ園内研修や保育を伴う園内研修などでの、幼児理解や保護者の内面を深く読み取ったり、環境や援助の見直しを行う。その回数と事例の数。

○保護者アンケート

- ・幼稚園生活の中で成長したと思われますか
- ・各学年の発達に応じて、
 - ③歳児 園生活の中で『ありのまま』の姿を表していますか
 - ④歳児 友達への興味が高まってきていますか
 - ⑤歳児 友達の思いを感じたり、友達と一緒に活動したりしようとしていますか
- ・体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか
- ・園で身近な自然に関わり、季節を感じる体験をしていますか
- ・自分の身の回りのことを自分でしようとするようになってきましたか
- ・生活や遊びの中で、必要なルールやきまりがわかり、守ろうとしていますか
- ・絵本やお話に興味を持つようになってきましたか

中間評価

各種指標結果

○週末のミニ園内研修や保育を伴う園内研修などでの、幼児理解や保護者の内面を深く読み取ったり、環境や援助の見直しを行う。その回数と事例の数。

月に2・3回のミニ園研・2か月に1～3回の園研を行っている。

各学年2事例以上のエピソードを作成し、研修を深めている。

毎週の週案作成時にも、テーマに沿った育ちの姿を挙げている。

○保護者アンケート（今回は98%の家庭から回答を得た）

- ・幼稚園生活の中で成長したと思われますか
⇒100%の保護者がそう思うまたはとてもそう思うと回答
- ・各学年の発達に応じて、
⇒具体的な育ちの姿を記入していただいた。 その中で

3歳児・・・『安心感・自立』『友達への興味』

4歳児・・・『遊びの中の意欲』『友達の気持ちを感じる』『言葉によるコミュニケーション』

5歳児・・・『意欲・自信』『友達との共感』

などの育ちを多くの保護者が実感されていた。

- ・体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか

⇒99%の保護者がそう思うまたはとてもそう思うと回答（4・5歳児は100%）

- ・園で身近な自然に関わり、季節を感じる体験をしていますか

⇒97%の保護者がそう思うまたはとてもそう思うと回答（5歳児は100%）

- ・自分の身の回りのことを自分でしようとするようになってきましたか

⇒95%の保護者がそう思うまたはとてもそう思うと回答

- ・生活や遊びの中で、必要なルールやきまりがわかり、守ろうとしていますか

⇒96%の保護者がそう思うまたはとてもそう思うと回答

- ・絵本やお話に興味を持つようになってきましたか

⇒100%の保護者がそう思うまたはとてもそう思うと回答

自己評価

分析（成果と課題）

- ・ご回答いただいたすべての保護者の方が、子どもの成長を実感しておられる。『〇〇ができるようになった』と外面向的に表れる姿に加え、『友達との様々な関わり』や『多様な経験』を通して、一人一人の子どもが“自分らしく”心が豊かになっていいかかれている姿も捉えられてい

	<p>る。</p> <p>○『身の回りのことが出来るようになる』『生活や遊びの中で、必要なルールやきまりがわかり、守ろうとする』などの項目につきましても、学年が上がるにつれ育ちの姿が見られる。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>○後期にも、さらに一人一人の子どもたちの『ちから』を伸ばしてけるように、また教師や友達との様々な関わりを通して、『レジリエンス』や『意慾』を高めていけるような環境や援助構成に努める。</p> <p>○特に生活習慣や社会生活に必要な『ルール』を身に付けていけるように、園でもさらにきめ細やかに一人一人の子どもの発達や『今』の姿に注目して、スマールステップ（=小さな段階的目標）を大切にしてサポートする。</p> <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <p>○週末のミニ園内研修や保育を伴う園内研修などでの、幼児理解や保護者の内面を深く読み取ったり、環境や援助の見直しを行う。その回数と事例の数。</p> <p>○保護者アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園生活の中で成長したと思われますか ・体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか ・園で身近な自然に関わり、季節を感じる体験をしていますか ・自分の身の回りのことを自分でしようとするようになってきましたか ・生活や遊びの中で、必要なルールやきまりがわかり、守ろうとしていますか ・絵本やお話を興味を持つようになってきましたか
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の様子や行事などを参観する中でも、子どもたちが生き生きと活動し、教職員に対して安心感を持っていることがよくわかる。今後も引き続き、教職員間の連携や、研修での『高め合い』を大切にしていってほしい。 ・保育や行事などに、さらに積極的に理事も参加するようにする。

最終評価

	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <p>○週末のミニ園内研修や保育を伴う園内研修などでの、幼児理解や保護者の内面を深く読み取ったり、環境や援助の見直しを行う。その回数と事例の数。</p> <p>ミニ園研は行事の打ち合わせを事前で文書などで共有しておくことで、実質保育の内容や一人一人の子どもの育ちなどの話し合いの時間を充実させることができた。（月に2～3回のミニ園研・月に1～2回の園研）事例は研究発表に向けてとそれ以後も含めて（大事例が19・ミニエピソードは46）</p> <p>○保護者アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園生活の中で成長したと思われますか 98%の保護者がそう思うまたはとてもそう思うと回答（4・5歳児は100%） ・体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか 98%の保護者がそう思うまたはとてもそう思うと回答 ・園で身近な自然に関わり、季節を感じる体験をしていますか 99%の保護者がそう思うまたはとてもそう思うと回答（4・5歳児は100%） ・自分の身の回りのことを自分でしようとするようになってきましたか 96%の保護者がそう思うまたはとてもそう思うと回答
--	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<ul style="list-style-type: none"> ・生活や遊びの中で、必要なルールやきまりがわかり、守ろうとしていますか 95%の保護者がそう思うまたはとてもそう思うと回答
	<p>自己評価</p> <p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>今年度は『レジリエンス』に焦点を当てて、保育の見直しを行ってきたことで、他の場面でも育ちがみられた。特に他の人との関わりの中で自分のありのままの思いを表したり、相手の思いに気付いたり、『違い』を認めたりする姿がよくみられるようになった。</p> <p>教職員自身が、子どもの思いの『揺れ』に気付く力が高まり、その時々に見合った環境の工夫を行うことが出来た。</p> <p>さらに、一人一人の子どもの『今』の姿を捉え、スマールステップを丁寧に設定し、持ち味を生かすことが出来るようにしていきたい。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>今後とも、『からだ』『しぜん』『アート（創造的な活動）』に焦点をあてて、丁寧に環境構成を行っていく。</p> <p>週案立案時や振り返り時に、様々な『視点』でクラスや一人一人の子どもの実態を捉えて、援助や環境の工夫ができるようにする。より広い教職員と話し合える機会をもてるようになる。</p> <p>教職員自身の保育力（特に子どもの行動や表情から内面を探る力・教材や活動の幅を広げる・相手に伝わる言葉や身振りの在り方など）やコミュニケーション能力を高める研修（委員会主催・研究会・外部の自主研修など）をさらに積極的に受講する。</p>
	<p>学校関係者評価</p> <p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>保育の充実は最重要課題であり、3年連続で研究発表に向けて取り組んでいることは、子どもの育ちに確実につながっていると感じる。</p> <p>今後とも、活動がより豊かにできるように、地域の『人材』や産業からの『廃材』などの活用を進められるように協力したい。</p>

（2）架け橋期の教育の充実に向けた幼保小連携・接続に関して

	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『みつばオープンスクール』の取組などを通して、幼児期の育ちを小中学校等にもわかりやすく発信する。 ・昨年度と同様に、園児・児童の交流や連携の取組を進める。 ・架け橋期（幼稚園）の指導計画の見直しを行い、小学校の『スタートカリキュラム』との連続性を高められるようにする。
	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○オープンスクール（後期）やKKP（烏丸中・上京中ブロック内の幼・小・中合同の研修プロジェクト）の取組などでの小学校の教職員との意見交流や発信内容の検証 ○園児と児童の交流活動の取組の見直しとその中の育ち

中間評価

各種指標結果

○KKP の取組などでの小学校の教職員との意見交流や発信内容の検証

⇒教職員が積極的に KKP の研修に参加し、園だけではなく地域全体の子どもたちの姿や課題を共有し、保育に生かしている。

⇒幼稚園の教員が、児童等の交流の中での園児や児童の『10 の姿の育ち』を見出し、小学校の教員と共有できるように努めた。

○園児と児童の交流活動の取組の見直しとその中の育ち

⇒園児・児童にとってさらに『日常』の教育活動と結びついた活動内容となるように工夫したことで、双方が生き生きと活動でき、交流後の生活にもつながった。(運動会見学・園での交流など)

自己評価

分析 (成果と課題)

- ・園の中だけで、KKP で地域ぐるみで、子どもの実態や課題を把握することができ、より的確に援助の在り方を検討することができた。
- ・園児と児童の交流を“その時だけ”に終わらすことなく、交流のなかでの互いの『育ち』を明らかにすることができた。

分析を踏まえた取組の改善

- ・後期に行う『オープンスクール』への参加を、さらに広く呼びかけ、教職員の学びを深める。
- ・小学校との交流活動では、今後さらに児童と園児・そして教職員間での応答性のある交流を進める。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

○オープンスクール (後期) や KKP (鳥丸中・上京中ブロック内の幼・小・中合同の研修プロジェクト) の取組などでの小学校の教職員との意見交流や発信内容の検証

○園児と児童また地域の他の幼児教育施設との交流活動の取組の見直しとその中の育ち

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・『架け橋期』として大きく注目される前から、みつば幼稚園と小学校との交流は、活発であった。それらの交流の積重ねを大切にしていってほしい。
- ・運営協議会としても、今後とも『橋渡し』役を積極的に行うので、園としてどのような取組を希望するのかを、伝えてほしい。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

○オープンスクール (後期) や KKP (鳥丸中・上京中ブロック内の幼・小・中合同の研修プロジェクト) の取組などでの小学校の教職員との意見交流や発信内容の検証

オープンキャンパスだけでなく、作品展などの行事の場にも他校種から見学に来られ、『幼稚園教育』の中で大切にしていること (一人一人の主体性を大切にする・教師の援助の在り方など) を伝えることが出来た。

また研究発表を通して、地域共通の子どもや保護者の状況を把握することが出来た。

○園児と児童の交流活動の取組の見直しとその中の育ち

園児と地域の保育施設との交流も行うことができ、より多様な同年齢の子ども同士の関わりを経験する中で自信を高める姿がみられた。

自己評

分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題

2 校の小学校との交流を通して、子どもたちは、回を重ねるごとに安定感を増し『交流活動』が特別なものではなく、『日常』の生活や遊びとして捉えられるようになってきている。

価 値	<p>これらの交流を通して、教職員も他校種の『学び』の在り方や指導の方法を学ぶことが出来た。さらに園の『主体的な環境を通しての学び』の在り方を小学校とも共有できるような取組を持続可能な形ですすめていく。</p> <p>次年度は新たにさらに1か所の地域の幼児教育施設とのつながりが生まれる予定なので、横の連携も進めて行く中で、さらに子どもたちの活動の幅を広げていく。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>『オープンキャンパス』の期間を拡充するなどして、より教職員の交流が容易になるような工夫を重ねる。</p> <p>小学校の『スタート時期』に小学校からのニーズに応じて、環境構成を小学校と共にを行うことで、1年生の安定につなげていく。</p>
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>保幼小（中）をつなぐことは、みつばの森として果たせる役割の一つだと考えている。</p> <p>互いの『ニーズ』を捉えて、調整したり、地域行事の中での関わりが生まれるように『橋渡し』をしていきたい。</p>

（3）預かり保育に関して

	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 早朝登園時の様子、保育中の様子・健康状態や子ども同士の関係性など、預かり保育担当者とクラス担任、および家庭と連絡を密にする。 個々の興味に応じた遊びをゆったりと楽しめる環境構成を行う。 <p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <p>○週案立案や、担当者と担任や管理職との協議の中での、活動内容の振り返りを行う。</p> <p>○保護者アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育でも子どもたちは安心して過ごしていますか
--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

中間評価

自己 評 価	<p>各種指標結果</p> <p>○週案立案や、担当者と担任や管理職との協議の中での、活動内容の振り返りを行う。</p> <p>⇒早朝・通常保育終了後のどちらの預かり保育においても、参加する子どもの実態に応じて、日々の環境や活動などを、フレキシブルに再構成し、週案立案に生かしている。また日々の様子を担任や管理職と共有し、預かり保育だけでなく、通常保育での援助の在り方や活動内容にも生かしている。</p> <p>○保護者アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育でも子どもたちは安心して過ごしていますか <p>⇒（利用している保護者の中の）97%の保護者がそう思うまたはとてもそう思うと回答</p> <p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育での子どもの姿を、担任やその他教職員と共有することで、多面的に一人一人の子どもの内面をとらえることができ、通常保育でも、より的確な援助ができる、子どもの『安定感』や『自信』につながる姿がみられる。 ・預かり保育での異年齢の関わりは通常保育にもつながり、園全体で学年を超えた『育ち合い』
--------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学校 関係 者 評 価	がみられる。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> さらに保護者の方々に『安心感』をもっていただけるように、預かり保育での過ごし方・遊びの様子などを知らせる機会を作る。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○週案立案や、担当者と担任や管理職との協議の中での、活動内容の振り返りを行う。 ○保護者アンケート <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育でも子どもたちは安心して過ごしていますか

最終評価

自己 評 価	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○週案立案や、担当者と担任や管理職との協議の中での、活動内容の振り返りを行う。 <p>預かり利用の子どもの、通常保育内での様子を丁寧伝え、預かり保育時の援助の在り方を日々共有することが出来た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保護者アンケート <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育でも子どもたちは安心して過ごしていますか <p>利用されている方の 99%の保護者がそう思うまたはとてもそう思うと回答 (4・5歳児 100%)</p>
	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>預かり保育ならではの、子どもたちからの『ニーズ』(この遊びをしたい・休息をしたいなど)を丁寧に捉え、環境や活動の工夫を重ねてきている。</p> <p>子どもたちの発達や『預かり保育』という時間の特性を考慮して、積極的に新たな遊具を取り入れている。</p> <p>利用者が年々多くなる中で、一人一人が安心できるような環境つくりの工夫や教職員の人的配置の工夫をさらに行う必要がある。</p>
学校 関 係 者 評 価	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>預かり保育での活動が、より充実するように、さらに遊具の工夫や、場の構成の仕方の工夫を重ねていく。</p> <p>預かり保育担当者と他の教職員との連携を、引き続き密に行う。(口頭や共有事項の文面化等)</p> <p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>社会情勢の変化に応じて、様々な保護者のニーズに応えるために、預かり保育の果たす役割の大きさを実感している。</p> <p>充実のため『イベント』としてみつばの森主催の『しおりつくり』を行っているが、今後も続けていきたい。</p>

(4) 子育ての支援に関して

具体的な取組

- ・個人懇談会やクラス懇談会、登降園時を活用した家庭とのきめ細かな連絡・連携を行う
- ・就労などで園行事（始業式、終業式・参観・懇談・研修など）や誕生会後の『ほっこり子育て広場』などに参加することが難しい保護者へのフォローを丁寧に行う（動画での配信など）
- ・未就園児親子が安心して好きな遊びを十分に楽しむ場や、子育ての喜びや不安を話せる場となる教育相談の内容の充実を行う。
- ・『満3歳児クラス』の充実に向けて、教育課程の見直しや在園児との『育ち合い』を大切にする。
- ・ホームページ・インスタグラム掲載や地域・小規模保育事業所へのチラシ配布など教育相談を広く発信する。

（取組結果を検証する）各種指標

- 日々の家庭との連絡・連携の振り返りと園だよりやホームページ・インスタグラムでの教育活動の発信
- 保護者との『話し合い』や情報発信の内容の検証
- 保護者アンケート
 - ・教職員に話しかけやすい雰囲気がありますか
 - ・幼稚園生活の様子はわかりやすいですか
- （おたより・参観・懇談・ホームページ・日々の話合いなど）

中間評価

各種指標結果

- 日々の家庭との連絡・連携の振り返りと園だよりやホームページ・インスタグラムでの教育活動の発信
⇒アプリなども活用し、より『読みやすい』内容で伝える努力はしてきた。
ホームページ・インスタグラムなどのアップ数は不十分である。
- 保護者との『話し合い』や情報発信の内容の検証
⇒保育の充実には、保護者の方々との『思い』のやり取りや、同じ方向を向いて子どもたちを援助していくこと大切さが欠かせないことを、園全体で共有し取り組んできた。さらに預かり保育利用者への配慮を深めていきたい。
- 保護者アンケート
 - ・教職員に話しかけやすい雰囲気がありますか
⇒97%の保護者がそう思うまたはとてもそう思うと回答
 - ・幼稚園生活の様子はわかりやすいですか（おたより・参観・懇談・ホームページ・日々の話合いなど）
⇒94%の保護者がそう思うまたはとてもそう思うと回答

自己評価

分析（成果と課題）

- ・多くの保護者が、教職員に家の様子について気軽に相談したり、園の様子を聞いたりされている実態がある。
- ・SNSへの発信は個人情報の流出防止や映像の取扱などに十分に配慮したうえで、必要な時に使用していく。

分析を踏まえた取組の改善

- ・保護者との、日常的なクラス全体や個別での話合いを最も大切にして、園の様子や一人一人の子どもの育ちなどを伝えていく。
- ・引き続き、登降園時により多くの保護者の方々とのコミュニケーションができるようにす

	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の方が、園に対して相談したい・喜びや不安を共有したいと思われたときには、担任だけでなく、管理職も含めてさらに誠意をもって対応できるようにする。 <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日々の家庭との連絡・連携の振り返りと園だよりやホームページ・インスタグラムでの教育活動の発信 ○保護者との『話し合い』や情報発信の内容の検証 ○保護者アンケート <ul style="list-style-type: none"> ・教職員に話しかけやすい雰囲気がありますか ・幼稚園生活の様子はわかりやすいですか <p>(おたより・参観・懇談・ホームページ・日々の話合いなど)</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の方にとって『安心感』をもつこと、『成長の喜び』を感じることはもっとも大切な『子育て支援である。教職員との直接的な『やりとり』をまずは大切にしてほしい。さらに補助的にSNSなどの活用も積極的に進めて行ってほしい。

最終評価

	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日々の家庭との連絡・連携の振り返りと園だよりやホームページ・インスタグラムでの教育活動の発信 保護者との『話し合い』や情報発信の内容の検証 日々の保護者との登降園時の話し合いを基本とするが、預かり保育などで担任が直接お話することが出来ない場合の掲示の工夫や、話し合いの機会つくりの工夫は重ねてきた。 ホームページ、インスタグラムは時期的にアップ数が大幅に減少したことがあり、今後の課題が残る。 <p>懇談会では、テーマを絞ったり、参加の方々がより主体的に参加できるような工夫を行った。</p> <p>○保護者アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員に話しかけやすい雰囲気がありますか ⇒98%の保護者がそう思うまたはとてもそう思うと回答 ・幼稚園生活の様子はわかりやすいですか (おたより・参観・懇談・ホームページ・日々の話合いなど) ⇒96%の保護者がそう思うまたはとてもそう思うと回答
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

自己評価	<p>分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>終業式や家庭教育研修などに参加できない保護者に向けて、動画配信や随時視聴などの工夫を重ねた。次年度も可能な限り、多くの保護者と園の取組を共有できるようにする。</p> <p>未就園児クラスの参加者は満3歳児をはじめ、ほぼ昨年度と同じ数を維持している。また在園児と同じように保護者の学びの機会を設け参加者も増えてきている。</p> <p>読みやすく理解しやすい『おたよりつくり』に留意したが、今後とも工夫が必要である。</p> <p>ホームページやインスタグラムのアップ数を向上させる。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>子育て支援の親子クラスの取組では、さらに、それぞれの保護者のニーズを丁寧に捉え、子どもたちの育ちの充実に加えて、保護者の安心感を高める取り組みを行っていきたい。</p>

	<p>子育て支援満3歳児クラスの取組は、実施回数や預かり保育の活用など充実し、利用者も多くなってきている。さらに質的な充実を目指し、園内の人的配置の工夫などをさらに重ねていく。園から、子どもの様子や育ちの姿を伝える方法としてのアプリでの月の便りの発信やホームページやインスタグラムの活用については、個人情報や画像の流出に留意しつつ、今後の充実が求められる。そのために園内での体制つくりを進めて行く。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>幼稚園が在園児のためにだけ存在しているのではなく、広く地域の子育て支援を行っていく役割を担っているということを、さらに広く知らせていくよう、みつばの森としても地域に働きかけていく。</p> <p>ICTを活用して、保護者とつながることも、今後も大切になってくるとは思うが、情報の管理など難し課題もある。当たり前のことではあるが、基本、人と人が直接的に関わる中でのコミュニケーションを大切にしていってほしい。</p>

(5) 地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）について

	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校などとの連携や交流を行ったり、PTA活動や学校運営協議会と連携した地域行事を保護者に案内し参加を呼び掛けたりする。 ・隣接する高齢者施設との交流が本格的に再開されること受け、地域の高齢の方々との親しみを深める。 <p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○上京中学校との交流や地域行事への参加の様子の振り返り ○高齢者施設との交流の回数（リモートなど間接的なものも含む）と、活動の振り返り ○保護者アンケート <ul style="list-style-type: none"> ・地域とのつながりの中で、子どもたちの育ちがみられますか。
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○上京中学校との交流や地域行事への参加の様子の振り返り <ul style="list-style-type: none"> ⇒上京中生との交流では、教職員同士が以前よりも、深く話し合い、互いの意欲や自信につながる交流の工夫をすることが出来た。 ○高齢者施設との交流の回数（リモートなど間接的なものも含む）と、活動の振り返り <ul style="list-style-type: none"> ⇒コロナ後、園児が施設内に入って、活動することが可能となった。 ○保護者アンケート <ul style="list-style-type: none"> ・地域とのつながりの中で、子どもたちの育ちがみられますか。 ⇒75%の保護者がそう思うまたはとてもそう思うと回答 16%…わからない
--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校との交流では、時間的な制約はあるが、今後とも、生徒・園児そして教職員にとって、心を動かすことが出来、中学生にとって『自信』につながるものとなるよう、交流前に積極的に活動内容の工夫を園からも提案していく。
------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者施設との直接的な交流の再開は、園児だけでなく保護者の方にとっても、とても『楽しみ』にされていた。また子どもたち（前期は5歳児）も初めての状況に適応し安定感をもって行動したり、自信をもって過ごしたりすることができた。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後期も施設側が（感染状況などを鑑みて）可能であれば1月に1回計画していく。 ・地域の方々が、保育の充実に貢献していただいていること、そして地域の方々との交流や行事参加の中での子どもたちの育ちを、わかりやすく、保護者の方々へ伝える努力を続ける。 <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○上京中学校との交流や地域行事への参加の様子の振り返り ○高齢者施設との交流の回数（リモートなど間接的なものも含む）と、活動の振り返り ○保護者アンケート ・地域とのつながりの中で、子どもたちの育ちがみられますか。

学校
関
係
者
評
価

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○上京中学校との交流や地域行事への参加の様子の振り返り 昨年と同様、生徒に加え、教職員が本園の研修に参加するなどの交流が生まれた。 ○高齢者施設との交流の回数（リモートなど間接的なものも含む）と、活動の振り返り コロナ後、初めて直接、施設に伺っての交流を複数回もつことが出来た。 ○保護者アンケート ・地域とのつながりの中で、子どもたちの育ちがみられますか。 89%の保護者がそう思うまたはとてもそう思うと回答
--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

自
己
評
価

	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>中学校との交流では、生徒だけではなく、教職員が互いの課題を共有し、話し合う機会をもつことが出来た。</p> <p>様々な地域の取組に子どもたちやその家族も参加することが多くなった。</p> <p>保護者アンケートでは14ポイントアップし、保護者の中にも『地域の中で育つ』ことの大切さを体感していただくことができた。</p> <p>高齢者施設との交流（『歌』のお届けや車いす体験など）では、子どもたちの成長のきっかけとなった</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>今後さらに、生徒との交流に加え、教職員の交流の機会を大切にし『育ち』をつなげていく援助の在り方を探っていきたい。</p> <p>地域の様々な取組を今後も、積極的に園から知らせしていく。</p> <p>高齢者施設との交流はさらに回数を多くしていく。</p> <p>引き続き、地域との連携の中での子どもたちの育ちを保護者に知らせていく。</p>

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	今年度、地域行事への家族ぐるみでの参加の数が多く、大変喜ばしいことだと捉えている。近年、地域と『疎遠』になることでの様々な問題が起こっているが、みつば幼稚園の子どもたちそしてそのご家族に関しては、今後も地域とのつながりの大切さや楽しさを味わい、地域社会の担い手となっていってほしい。

(6) 教職員の働き方改革について

重点目標	前年と比べ、すべての教職員の超過勤務時間を削減し年休等の取得率を上げる。
	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人一人の教職員が『働き方改革』+『働きがい改革』の意義を理解し、常に意識して業務を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ○業務の中で、時間をかけて行うものと効率化を図るものメリハリをつける。 ○『勤務時間削減』と『保育や研修の充実』に向けた具体的に工夫した点を明らかにする。 保護者の方々や地域の方々にも『働き方改革』の意義をお知らせし、ご理解いただく。
(取組結果を検証する) 各種指標	(取組結果を検証する) 各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の勤務時間の推移・年休や特休の取得率

中間評価

自己 評 価	各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の勤務時間の推移・年休や特休の取得率 <ul style="list-style-type: none"> ⇒教職員全体の勤務時間数は減少している。 年休・特休などの取得率は増加している。
分析 (成果と課題)	<ul style="list-style-type: none"> 時期により、勤務時間の超過傾向がみられることがある。 保育の充実のためにやむを得ない時期もあることを考慮し、日常の保育の業務の取り組み方の工夫をさらに重ねる。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 週単位や月単位でさらに見通しをもって、保育の準備や提出物作成などを計画的に行う。 業務の分担を行い、それぞれの教職員がさらに助け合って業務が行えるようにする。
(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の勤務時間の推移・年休や特休の取得率
学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> 保育の充実のための『働き方改革』であるので、地域行事への教職員の参加の仕方なども積極的に見直しを進めて行ってほしい。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
<p>・教職員の勤務時間の推移・年休や特休の取得率</p> <p>勤務時間は行事・研究発表前などに多くなる傾向がみられるが、目標値以下に抑えられている。 年休・特休は必要時に各自が取得することが出来ている。(取得率は昨年度に比べ上昇している)</p>	
自己評価	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>研究発表に向けて、常に内容の充実と合わせて合理的に内容を深めていくかを念頭に置いて進めることが出来た。</p> <p>年休・特休を必要時に取得できる職場の協力体制や雰囲気つくりを今後とも大切にする。</p> <p>来年度に向けては、保育の準備や行事の取組の在り方を見直す。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>教職員がさらに先の見通しをもって業務にあたり、計画性を持ち、教職員間でも分担をさらに効率的に進められるようにする。</p> <p>行事の取組に関しては昨年度の状況や反省を効率的に生かして、立案できるようにする。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>日々の取組の充実と『働き方改革』の推進の難しさは感じている。</p> <p>目標値を定め、計画的な業務の配分をしていってほしい。</p> <p>そのために、みつばの森としては、地域との調整役や行事のサポートなどを積極的に行っていく。</p>